

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（店長）	・客単価に下げ止まり感が出てきた。客数もわずかに増加している。業況は、年間ピークの夏に向けて順調に上がりそうである。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・商店街の店舗の新陳代謝が多くなっている。魅力的な新店舗もゴールデンウィーク前にオープン予定である。地元イベントが多く、そこに観光客も加わって、相乗効果で賑わうと思う。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・6月、近隣の高速道路料金の区間が無料となるため、夏に向けて、地元食材のかつおなど、食を自給の観光客が増える。
		一般小売店〔菓子〕（総務担当）	・高速道路料金引下げ効果により、消費が増加する。
		百貨店（営業担当）	・来客数は減少しているが、買上動向として、高額商品が動いている。
		スーパー（店長）	・景気回復の期待感が客の購買意欲を引き出す。ただ、マイナス要因は天候不順で、夏物が売れないことで今後どのように影響していくのか不安材料である。
		スーパー（企画担当）	・6月の子ども手当支給に向け、学習塾や旅行業界では、良い話題を聞く機会が増えた。
		コンビニ（総務）	・天候、気温ともに回復し、ゴールデンウィークを契機に、下げ止まりの期待が持てる。
		衣料品専門店（経営者）	・販売単価と客数は、4月を除いて、好転基調であるため、2～3か月後は良くなると期待している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・暖かくなると、売上は徐々に上昇する。
		観光型旅館（経営者）	・5～6月の予約状況は、昨年より少し良い状況である。今後、四国ゆかりのドラマ放映効果から期待が持てる。
		旅行代理店（支店長）	・高速道路料金見直しにより、マイカー利用の近場旅行から公共交通機関利用の旅行需要増加へつながる期待感がある。また、海外旅行は上海万博開催の影響のためか、申込者は増加傾向である。
		通信会社（管理担当）	・新商品を投入するため、期待が持てる。
		通信会社（企画）	・アナログ放送終了一年前を迎え、高齢者など、アナログ保守層のデジタル化が進めば、更に売上が伸びる。
		美容室（経営者）	・暖かくなってきたため、4月は来客数が多かった。
		設計事務所（所長）	・民間の建築投資が少しずつ増えている。また、福祉関係施設の新築が増えてきた。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅取得資金に関する贈与税の非課税枠の拡大など、平成22年の税制特例の駆け込み需要が見込める。
	変わらない	商店街（代表者）	・子ども手当が話題になっているが、消費には繋がらない。
		商店街（代表者）	・客から、政府の景気対策が見えてこないという声を聞く。消費意欲が向上するには時間がかかりそうである。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・ガソリン価格の高騰が懸念されるため、景気好転の実感、予想がない。
一般小売店〔酒〕（販売担当）		・販売量が増える要素がない。	
百貨店（販売促進担当）		・子ども手当の支給があるものの、今後のために貯蓄するという意見をよく聞く。また、就職難や賞与カットなど、景気が良くなる見込みがないため、売上の期待が持てない。	
百貨店（売場担当）		・所得の低下傾向が続くなかで、観光や地元の特産品などは好況が予想される。しかし、我々の取り扱う、身の回り品や美術・呉服・貴金属などの高額品は苦戦が予想される。	
スーパー（店長）		・子ども手当などの、明るい面はあるが、一方で、介護保険料金などが上昇する懸念があるため、景気が上向くことはない。	
スーパー（店長）		・日配品や米、調味料などの主力品の低価格化により、商品単価は下落している。しかし、客単価は回復している。特に、鮮度や味の良い生鮮品や新商品が売れている。	
スーパー（人事）		・このまま好況に向かうとまでは思わない。	
衣料品専門店（経営者）		・まだまだ不安要素が払拭しきれない。	
衣料品専門店（経営者）		・ガソリン価格の値上がり懸念される。	

	衣料品専門店（総務担当）	・企業が本格的に回復し、雇用不安がなくならなければ、衣料品業界に景気回復の効果は出てこない。様々な企業の方の話聞いても、良い話はほとんどない現在では景気回復はまだ見込めない。
	家電量販店（営業担当）	・主な買上商品はテレビとなったことで、他の商品の購入を抑える傾向が伺える。現在の状況が当面続くと思われる。
	乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度が9月まで延長され、なんとか夏までは、現状維持できるが、9月以降は、厳しい販売状況が予想される。対策の打ちようがない。
	乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度が切れる9月までは横ばいの予想である。しかし、9月以降はかなり落ち込む。
	乗用車販売店（役員）	・エコカー購入補助金制度があるため、今後3か月は、今の景気状態が続くと思う。しかし、それ以降、景気は下落する。
	一般レストラン（経営者）	・ゴールデンウィーク期間は、客の出費は多くなるが、その反動で、5月中旬以降は買い物を控える傾向が出ると予測する。
	都市型ホテル（経営者）	・「土佐・龍馬であい博」のため、なんとか持ちこたえている。しかし、消費傾向は、まだデフレ傾向が続いており、景気の停滞感は、底堅く残っている。
	タクシー運転手	・「土佐・龍馬であい博」等のイベントを、地元全体で取り組んでいるため、観光客の入りは良い。しかし、高速道路料金割引の影響で、タクシー利用度は増加していない。また、夜の街への人の出入りが少なく、飲む際にも、タクシーを利用する人は少ない。
	通信会社（社員）	・ここ数か月の販売量は、例年と比べ大きく増えていない。今後もさほど変わらない。
	通信会社（支店長）	・景気動向は上向き傾向にあるものの、体感できるほどの大きな変化はない。
	ゴルフ場（従業員）	・3か月先の予約状況は、今よりやや悪い状況である。今後、予想される予約数を加味しても、概ね横ばいの状況である。
	美容室（経営者）	・先行き不透明な経済状況であるため、このまま悪い状態で推移していく。
やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・月初の春物商品の動きが鈍く、特に紳士用ファッション商品の動きが鈍かった。高額商品にも冷え込みがみられ苦戦した。
	衣料品専門店（副店長）	・2～3か月先は、セールの時期になる。客は、セールだから買うというスタンスではなく、セールであろうと正規価格であろうと、自分が欲しい物を買うというスタンスの客が増えた。
	乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度が9月まで延長されたが、ガソリン価格上昇の影響があるのか、新車の受注が伸びていない。
	乗用車販売店（営業担当）	・来店客数は、週によりばらつきがあるため不安が残る。
	タクシー運転手	・依然、利用客が少ない。
	タクシー運転手	・この先、四国八十八箇所周りの遍路客は減るため、街中の仕事しかなくなる。そうなった場合、今の景気の状態では、とても上向きとは思えないため収入は減少するであろう。景気が良くなり、夜、飲みに出る人が増えれば多少違うが、現状ではそれは望めない。
	観光名所（職員）	・高速道路料金が実質値上がりするため、観光客が今後減少すると思われる。
	競艇場（職員）	・年間で最も売上が期待できるはずのイベントレースが前年に比べ25%減少と落ち込んだ。このことから、売上の右肩下がり傾向は続いている。
	設計事務所（職員）	・客先の事業規模が昨年度以上に縮小されている。そのため、給与額の増加は見込めず、家計動向は良くなる見通しが立たない。
悪くなる	スーパー（統括担当）	・来客数の減少以上に、客単価が減少している。この傾向がずっと続いている。
	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・政局の迷走のため、景気の先行き不透明感がさらに増している。支出を減らすのは庶民として当然の行動である。
企業動向関連	良くなる	-
	やや良くなる	-
	食料品製造業（従業員）	・営業の商談状況や生産高の推移を見ても、少し上向きの気配がある。

	電気機械器具製造業（経営者）	・10年前から、事業の一部門として、一般家庭用から産業用までの太陽光発電設備の取り付け工事を行っている。特に最近、受注が多く、毎月増えている。売上も徐々に増え、前年比で2倍にまで増えている。また、LED関連部門も依然好調である。	
	建設業（総務担当）	・数年間放置されていた一戸建て住宅用開発用地で、最近になり、かなりまとまった軒数で着工されるようになった。地価は引き続き下落しているが、一部では値ごろ感が出てきた。	
	通信業（営業担当）	・個人的な対話の中で、やっと個人消費が上向いていると感じる。	
	不動産業（経営者）	・一昨年の米国の大手金融機関の破たん以降、不動産業は、厳しい状況が続いている。そのようななか、各業者は、在庫を処分するために、従来の価格より下げて販売している。消費者も、価格が安くなれば反響はある。そのようなことから、やや動きが出てきている。	
変わらない	農林水産業（総務担当）	・良くなる要素は見当たらない。	
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・今後も、市況にあまり変化はない。これ以上、材料価格が上がると、価格修正をせざるを得なくなる。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・海外向けの受注の引き合いはあるが、国内向けは依然として厳しい。	
	建設業（経営者）	・良い材料が全然見当たらない。	
	通信業（部長）	・企業の購買姿勢はこれまで慎重である。導入効果が明らかでない新規提案には、気軽に踏み込まない慎重さが続いている。企業の成長を促すには、投資減税等の施策が必要である。国内外の需要のみでは、景気の回復は望めない。	
	広告代理店（経営者）	・新規出店に伴う広告契約や大手量販店の年間レギュラー広告契約の増加など、一部の得意先では、前向きな動きが出ている。しかし、得意先の多くは、依然販売不振により広告費を削減している。	
	公認会計士	・関与先企業の経営者からの話によると、設備投資を積極的に考える企業がまだまだ少ない。不動産価格は、もう少し下落すると予想する人もいて、景気の底を這う状況がまだ続く。	
やや悪くなる	鉄鋼業（総務・人事統括）	・原材料、エネルギー価格の上昇により、収益環境の悪化が懸念される。	
	広告代理店（経営者）	・業界内で、技術革新の波が押し寄せており、長期的には大きな業態変革を迫られることが必至である。その際に装置産業からの脱却が図れるかどうか焦点となる。業界として、縮小傾向の加速は間違いなく、大々的な淘汰が発生する。	
	繊維工業（経営者）	・以前はやや景気が上向きかけていたとの実感があった。しかし、ここ最近、原料の綿糸価格が急騰しており、今後は採算が悪化が見込まれる。これはインド、中国が、景気好転により、自国の生産を急激に増加させているためである。しばらくはこの厳しい状況が継続する。	
	悪くなる	-	-
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・来月以降、自動車関連での雇用調整が開始されるという情報がある。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・昨今は、雇用は買手市場といわれているが、地元大手企業でも採用に際し苦戦を強いられている。また、中途採用市場でも低調な状況が続く。	
	新聞社 [求人広告]（担当者）	・坂本龍馬がらみの観光客は、日帰り客が多く、宿泊に結びついていないと言われているが、最近は確実に賑わっている。ただし経済全般で明るい話題がないため、今後、ジリ貧傾向が続くのは間違いない。	
	職業安定所（職員）	・良くなりつつあると思うが、確かな材料が見当たらない。	
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率は先月と同じで横ばいとなった。	
	民間職業紹介機関（所長）	・景気上向きとなった業種もあるが、全体的に見た場合、まだまだという感がある。業種を問わず、公共事業の削減が影響している企業が多い。	
	学校 [大学]（就職担当）	・新4年生を対象とする求人件数は、昨年度1～3月は325件であったが、今年度は201件であった。また、求人数は昨年度2,098人に対し今年度は1,271人と、共に6割程度である。	
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-